

2024「ことばの森教室」第1回優秀作品紹介

<小学校5年生>作文課題

「お手伝いしたり働いたりして、感じたことや考えたこと」

5-① 「まほうの一口」

5年生になって、家庭科でお茶入れを教わった。その日私は家に帰って、そのことをお母さんとお父さんに教えた。家にはきゅうすがなかったから、きゅうすを買いたいと伝えた。そして、きゅうすを買う日を楽しみにしていた。

何日かたったある日、きゅうすを買いに行くことになった。とてもうれしい。そして、心はずませながらきゅうすを買いに行った。じっくり何分かけて選んだのが、水玉もようのきゅうすだ。とてもかわいくきゅうすで、このきゅうすでお茶を入れるのをとても楽しみにしていた。そして次の日の夜、お母さんとお父さんにお茶を入れた。家で入れるのは初めてだったから、とてもドキドキしてきんちょうした。お茶を入れていると中、お母さんが何度か声をかけてくれた。「大じょうぶ?」「おいしそうだよ。」などと、声をかけてくれた。お茶を入れ終わって、いよいよ飲んでもらう番だ。お父さんが一口目を飲んだ。私は、おいしいかなと心の中でつぶやいた。すると、お父さんは笑顔で「おいしいよ。」と、言ってくれた。私も飲んでみたら、おいしかった。その理由は、みんなが笑顔で飲んでいるからだと思う。

お茶を入れるだけで、みんなの笑顔があふれるなんて、まるで魔法だ。それを見ていると、なんだかとてもうれしくなる。その笑顔をずっと見ていたいから、この手伝いを続けたいと思う。

5-② 「お手伝い増量」

僕は普段、全く家事を手伝わない。そうじはしない。洗濯もしない。食事も作らない。だけど、家はいつもきれいだし、服はいつも清潔な状態でハンガーにかかっているし、朝起きたら温かいご飯が用意されているし、夜もテレビを見ている間にご飯が用意されている。全て、母と父と祖母と祖父がやってくれている。

今まではこれが当たり前だったが、僕はもう11才になるので、自分のことだけでなく、家のことも手伝いたいと思うようになった。5年になって家庭科が始まったので、家事に興味を持ったことがきっかけだ。「僕に何かできることはある?」と、母に聞いてみた。「まずは、簡単な洗濯を手伝ってみない?」と、母は言った。やってみたいと思ったし、洗濯ならできそうだった。洗濯の手順は、まず一日着た服を洗濯機に入れる。そして、洗剤と柔軟剤を洗濯機の上にある投入口にキャップ一杯分入れる。最後に電源を入れて、スタートボタンを押したら終わり。すごく簡単だ。これだったら続けられそう。

それから2, 3日続けた。そして、大変だけど、やっぱり楽しいということに気づいた。だから、できる日に父と母の手伝いをしようと思った。もうちょっとできる家事を増やして、やる日も増やそうと思った。

5-③ 「お母さんの家事と僕の手伝い」

自分が家の手伝いをして、お母さんはこんなに大変な家事をやっているんだなと強く思った。前にはそのように思ったことは全くなかった。いつもお母さんに「手伝って」と言われた時だけ、渋々やっていた。しかし、今になって考えると、自分がイヤイヤしながらやってきた手伝いも他の家事も、全てお母さんがやっているということに気がついた。

そこで僕は、自分にも何かできることはないかなと考えた。自分ができることは、積極的に手伝いをすることだった。僕は、色々な手伝いをすることを決意した。まず、洗濯物をたたむ手伝いをした。しかし、たたみ方が分からず大変だった。そして、洗濯物を干す、取り込む手伝いもすることにした。洗濯物が多くて、作業がすごく大変だった。また、自分が食べた分の皿洗いをした。ずっと洗っていると、手が疲れてきて、とても大変だった。そして、料理の手伝いもすることにした。料理は自分でできることをやり、お母さんから頼まれたことも、すぐにした。このように、僕は色々な手伝いをした。

僕は手伝いをしていくにつれて、お母さんはこれを毎日全部一人でやっているんだなと、びっくりした。仕事をしながら家事をされていてすごいなと思った。どの仕事も疲れるが、お母さんは毎日この家事をやっていると思うと、さらにびっくりしてしまう。こんなにお母さんが頑張っているから、自分も頑張ろうと思えるようになった。

5-④ 「ぼくとお茶つみ」

4月27日に山梨県南部町でお茶つみをしました。家族で行きました。南部町はお茶が有名で、僕のおじいさんの生まれた家があり、お茶畑を持っています。毎年4月下旬頃から5月上旬に、新茶を収穫します。

まず、お茶は主に機械でかります。その機械は、2人で持つお茶かり機です。お茶かり機は、長い刃がついていて、バリカンのようにお茶の葉をかり取っていきます。このお茶かり機で取れないところは、手でつみます。お茶をかり終えた後は、かったお茶の葉にかれ葉や枝がまざれこんでないかチェックします。その後、せい茶工場に持っていき、茶葉にしてもらいます。

お茶かり機を使うのは、お父さんとおじいさんとおじさんです。僕は機械を使えないので、手でつみましました。手でつんでみたら、機械の方が百倍早かったです。気が遠くなりました。そのあと、お茶かり機でかったお茶の中から、「かれ葉や枝を取りのぞいて」とおばあさんに言われて、かれ葉や枝をコツコツとよく見て取りました。お茶の葉の山から、かれ葉をさがすので、目が疲れました。その横で、弟はお茶の葉の山でトンネルを作っていました。「無じゃ気なもんですな」と思いました。

僕は、おじいさんが作るお茶が好きです。理由は、ほどよい渋みと飲みやすさがマッチしておいしいからです。今年の新茶は、よい渋みでおいしかったです。お茶かりの仕事は、大変だと思いました。

5-⑤ 「たまに楽しくやる手伝い」

「〇〇、これ全部一人で作ったの?」と、母・父が言った。その時、僕はうれしそうに「うん、自分一人で作った。」と言った。でも、母にも少し手伝ってもらったから、だいたいということだ。次にやる時は、自分で全てやろうと思ったが、重いフライパンを持ったりできないと思った。

僕が料理をするようになったきっかけは、母が一人で大変そうに料理をしていたからだ。そして僕は、少しずつ夕食の仕度の手伝いをやり始めた。最初は、やり方を教えてもらいながら少し手伝った。だが、いつの間にか一人で大体夕食一日分を作っていた。そうしたら、母も楽になったように見えた。作るたびに、「〇〇が作った料理おいしい。」と言われ、うれしかったし楽しかった。僕が作るのは、野菜炒め、サラダ、色々キノコのバター炒め、小松菜のあえ物だ。作るのは簡単だが、盛りつけが難しい。皿の大きさ、さらにセンスも求められるからだ。だから、盛りつけは母がやっているのだ。あと、フライパン返しも。ただ母がやるのが2つだから、母は台所にちょくちょく見に来る。多分心配しているのだろう。心配してくれるのもいつもの母だ。それも良いところだと思う。大好きな息子が作っただけで、母や父もおいしく感じられるのだろう。

母が毎日料理をするのは大変そうだ。だから、「たまに」ではなく日々やれば料理も上手になるし、母も

楽になる。一石二鳥だ。これからも続けていきたいと思う。

5-⑥ 「みんなでする意味」

私の仕事は、洗濯物のタオルをたたむことです。母はタオル以外の洗濯物をたたんで、父は洗濯物を干す仕事をします。一番上の兄は、タオルやパジャマを洗面所の棚にしまっていて、二番目の兄は、洗濯物を取り込むことと服などを2階のクローゼットまで運ぶ仕事をしています。このように私達家族は、洗濯物を分担してやっています。

私は、どうして仕事を分担してやっているのだろうと思いました。普通なら、洗濯物をたたんだらそのままクローゼットに運べばいいのに、私の家族は一こ一こに分けていて、不思議に思います。もしかしたら、親は意味を持って分けているのかもしれないなと思いました。なぜ分けているのか、私は「二つの意味」があると考えました。一つ目は、母や父だけではなく、家族全員で協力してやるためだと思います。二つ目は、自分から仕事に取り組んで欲しいという思いがあるのだと思いました。

私は、よく母に「やりなさい」と言われて、少し時間がたってから動くこともあるし、面どうくさいなと思っている時もあります。やりたくなくて、やらない日もあります。でも、この「二つの意味」が本当なら、私はこれからは親に言われなくても仕事をしたいです。そして、他にも家族が喜んだり助かったりする仕事を自分で見つけて、積極的に取り組んでいきたいと思いました。

<小学校6年生> 作文課題「今一番がんばっていること」

6-① 「がんばっていること」

片足で2回転し、そのまま続けて回ること(フェット)を練習している。2回目からが、なかなか上手く回れない。いつも「どうしたら上手く回れるのかな」と考えている。今年の8月に、クラシックバレエのコンクールがある。

以前にもコンクールに出場したことがある。だから、以前とは違う踊りを踊ってみたいと思った。なかなか上手く踊れないでいると、「努力は積み重ねれば、きっと上手くなる」と、先生が声をかけてくれた。今できなくてもいつかできるようになる。それでもできなかったら、努力が足りていない、と前向きに考えるようになった。以前もコンクールに出場してきたが、先生が言っていたように、前向きに考えることができなかった。これが、私に足りていない部分だと分かった。このことを頭に入れながら、8月のコンクールに向けて頑張っていきたい。

私は、プロバレリーナになって見に来てくれた人達の心に、一生残るような踊りを踊りたいと思っている。その為には、前向きに踊っていくことが大切だと思う。将来、前向きに踊り続けて、みんなに笑顔をお届けられるプロバレリーナになりたい。

6-② 「ピアノの発表会に向けて」

僕は今、12月の初めにあるピアノの発表会に向けて、曲の練習を頑張っています。僕がピアノの発表会で弾く曲は、「エリーゼのために」と「庭園のメロディー」です。毎日練習をすることは大変です。けれど、上手に弾くことができるようになると、すごくうれしいので、一日にどちらも20分以上練習をしています。火曜日は、ピアノの教室に行って、先生の弾き方を見せてもらったりアドバイスをしてもらったりします。

ピアノの発表会の曲以外にも、練習をしている曲が2つあります。それは、ツェルニー100番練習曲と

ブルグミュラー25番の練習曲です。この曲の方も練習をして、曲を上手に弾くためのやり方などを、火曜日に先生に指導してもらっています。そのおかげで、ピアノを始めた頃よりも、ずっと上手になっていると自分でも思っているし、周りの人達にも言われることがあります。

ピアノは1年生の頃からしているので、発表会は今回で6回目です。初めはすごく緊張していたけれど、6回目なのでたくさんの方がいる発表も慣れているので、あまり緊張はしていません。けれど、今は少し不安があります。本番で失敗はしないか、本番までに完璧に弾けるようになるか、など他にもたくさんあります。その不安を少しでもやわらげるために、毎日たくさん練習をしていこうと思います。

6-③

「一番がんばっていること」

「わあー、やった。上手く描けた。」私が今一番頑張っていることは、絵を描くことだ。小さい頃から絵が得意で、よくお母さんと一緒に描いていた。でも、妹が生まれてからお母さんは忙しくなって、一緒に描けなくなった。それから私も絵を描く時間が減り、描かなくなってしまった。

そして、本格的に絵を書き始めたのは、4年生の頃だった。相変わらず絵が得意で、たくさん描いていた。絵画教室にも通わせてもらって、絵の描き方もしっかり教わった。平日は忙しくて描く時間がないから、いつも土日描いている。アニメキャラクターを描く方が得意で、よく描いていた。6年生になって、絵画教室もこれで3年目。ますます絵が上達していると思う。最初は苦手なことだって、やっていけばいつかは好きになれるかもしれない。上手く描けない時だってあれば、上手く描けてうれしい時もある。上手く描けない時は、あきらめず頑張れば描けるのかなと、ずっと思ってきた。その思いがあったから、今まであきらめず、ここまで上手く描けるようになったと思う。

頑張っていることは他にもたくさんあるけれど、私は絵が好きだからこれからも頑張って、いつかは将来に生かせられたらいいなと思っている。